

**製品名: Nanog P8 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14403**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | ヒト、ラット、マウス   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:2000-1:20000 |
| 分子量  | 35kDa   |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | NANOGP8  |
| 別名           | NANOGP8; Putative homeobox protein NANOGP8       |
| 遺伝子 ID       | 388112.0   |
| SwissProt ID | Q6NSW7   |
| 免疫原          | 抗血清はヒト NANOGP8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100 |

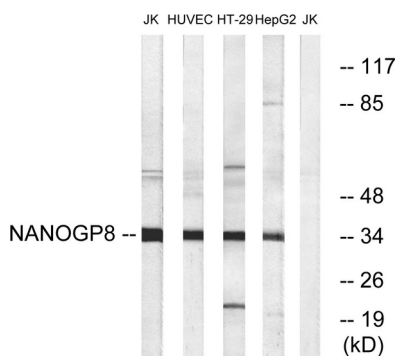
**背景**

この遺伝子座は、転写因子 NANOG の加工された疑似遺伝子です。NANOG は、多能性幹細胞および腫瘍細胞における自己複製の制御において中心的な役割を果たしています。この疑似遺伝子には、NANOG に類似したタンパク質をコードする可能性のある完全な

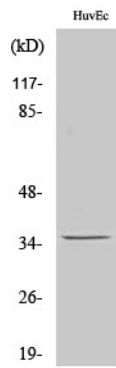
オープンリーディングフレームが含まれています。この擬似遺伝子からの転写の証拠はありませんが、RT-PCR 研究では、NANOGP8 が一部のガン細胞株で発現している可能性が示唆されています。組み換え NANOGP8 タンパク質を使用した in vitro 研究では、このタンパク質が核に局在し、NANOG と同様に細胞増殖を促進できることが示されています。[RefSeq 提供、2009 年 9 月]、発生段階：胚性幹 (ES) 細胞および癌 (EC) 細胞で発現。妊娠 14~19 週の間、胚盤胞および生殖腺の内部細胞塊 (ICM) で発現 (タンパク質レベル)。卵母細胞、未受精卵母細胞、2~16 細胞胚、初期桑実胚では発現しない (タンパク質レベル)。胚性幹細胞 (ES) で発現する。ES 分化に伴い発現が減少する。機能：転写調節因子として機能する可能性がある (類似性による)。過剰発現すると、細胞が S 期に入り増殖することを促進する。機能：内部細胞塊および胚性幹細胞 (ES) の増殖および自己複製に関する転写調節因子。ES 細胞に多能性を付与し、胚体外内胚葉および栄養外胚葉系統への分化を防ぐ。SMAD1 と物理的に相互作用し、活性 SMAD 転写複合体へのコアクチベーターのリクルートを阻害することで、ES 細胞の骨形成タンパク質誘導性中胚葉分化を阻害する (類似性による)。転写活性化因子または抑制因子として機能する (類似性による)。DNA コンセンサス配列 5'-TAAT[GT][GT]-3'または 5'-[CG][GA][CG]C[GC]ATTAN[GC]-3'に最適に結合する (相同性による)。過剰発現すると、細胞の S 期への移行と増殖を促進する。その他：NANOG とほぼ同一。推定アミノ酸配列において、NANOG の [Gln-253] が NANOGP8 の [His-253] に 1 箇所のみ変更されている。その他：別のタンDEM重複非プロセス擬遺伝子 (NANOGP1) と、異なる染色体上に位置する 10 個の他の NANOG 関連ヌクレオチド配列が存在する。これらはすべて、イントロンを欠いたプロセス擬遺伝子である (NANOGP2~NANOGP11)。NANOGP8 はレトロ遺伝子である。オンライン情報:Nanog エントリ,類似性:Nanog ホメオボックスファミリーに属する。類似性:1 つのホメオボックス DNA 結合ドメインを含む。サブユニット:SMAD1 および SALL4 と相互作用する。組織特異性:骨肉腫細胞株で発現 (タンパク質レベル) (おそらく)。子宮頸部腫瘍、乳房腫瘍、膀胱腫瘍、および骨肉腫、肝癌、乳腺癌の癌細胞株でも発現する。組織特異性:精巣癌および派生生殖細胞腫瘍で発現 (タンパク質レベル)。胎児性腺、卵巣、精巣で発現する。卵巣奇形癌細胞株および精巣胎児癌でも発現する。多くの体細胞器官および卵母細胞では発現しない。

## 研究分野

## 画像データ



NANOGP8 抗体を用いた HUVEC、HT-29、HepG2、および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Nanog P8 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。